

第 147 号 2007 年 11 月 10 日

年6回 1.2.4.6.9.11 月の10日発行

1部 500円

発行所:JIC 国際親善交流センター 発行責任者:伏田昌義

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6F

http://www.jic-web.co.jp TEL:03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連

国際交流



<ウズベキスタンの風景>

※ JICは頑張る人を応援します!

JICでは、Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。 年6回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

忘れえぬ人々との出会い in ウズベキスタン

青い空を思い浮かべると、私の脳裏には鮮やかな青と土色の建物が織り成すウズベキスタンの光景が浮かんでくる。 そしてその景色を背景に、その土地土地で出会った人々との出会いが思い出される。

ウズベキスタンは日本からは飛行機で約10時間、中央アジアのど真ん中に位置する、有数の世界遺産を持つ国。

今回のウズベキスタンへの渡航は私の人生の中で2度目。 1 度目は今年の2月に仕事で訪れた。その時、生まれて初めて見るウズベキスタンの世界遺産と暖かい人々との交流にいたく感動し、夏期休暇を使って再度個人的に訪れることを決めたのだ。

今回は、私がウズベキスタンを旅行した際に、特に心に 残った出来事や人々との交流を中心に振り返ってみたいと 思う。

これぞ商売魂?!ウズベキスタンのタクシードライバー

10時間のフライトを経てタシケントの空港に到着し、外に 出た時はまだ夜明け前であたりは真っ暗だった。海外から の観光客目当てのタクシードライバーたちが「タクシーは必 要ないか?」と群がり、狭い出口を塞いでいた。「いらない、 いらない」と半ば不機嫌にその群がりを振り切り、まっすぐ国 内線の空港を目指す。

「いらないってば!」と眉間にしわを寄せて突っぱねれば 大抵の者は退散するのだが、今回は1人のおじさんが凝りも せずにくっついてきた。何を話しかけられても一切無視、が それでも諦める気配も無く執拗についてくる。「お姉ちゃん、 どこ行くの?タクシーは必要ないの?」と。あまりにもしつこ

いから「国内線に乗り換えるだけだから、何にも必要ない」とそっけなく答えた。「何時の飛行機?」と聞かれたので「7時。」と答え、また足早に歩き続けた。しかし「こんな早い時間じゃ、空港だって開いてないよ!」と



いうおじさんの一言でさすがの私も足を止めた。するとおじさんはしめしめと思ったのか、流暢に(でも、ウズベク語なまりで)話しはじめた。「まだ出発までかなり時間があるじゃないか。こんなに寒い中、外に突っ立ってたら風邪をひいちゃ



うよ!まあ、あそこのカフェにでも入って、ゆっくり空港が開く のを待てばいいじゃないか。さ、荷物を運ぶのを手伝ってあ げよう。」

あれよあれよという間に、いつの間にかおじさんのペースにはめられてしまった。どうせまた別れ際に手伝い賃でもせがまれるんだろうな・・・と思いつつ、おじさんの後に続いた。カフェの前に着くとおじさんが私の方へ振り返って言った。「ところで、お金はあるのかい?スムだよスム。」スムというのはウズベキスタンの通貨だ。こんな朝早くに空港の両替所が開いているわけもなく、まだドルからスムに両替できずにいた。「いや、スムはまだもってない。」「そりゃ問題だ!ウズベキスタンじゃカフェだろうがキオスクだろうがどこに行くにしたってスムが必要だよ!そうだ、なんならおじさんが両替をしてあげよう。それがいい!じゃあ 20 ドルよこしなさい。そしたらおじさんが君に 20000 スムを渡して・・・」

「えっ、ちょっと待って。」と、矢継ぎ早に話を進めようとするおじさんの話をさえぎった。いくら学生時代に数学が一番の苦手科目だった私でも簡単な計算くらいはできる。「なぜ20ドルで20000スムなんだ??」とおぼろげに疑問が浮かんだ。確か日本を出る前に見たスムのレートが1ドル1250スムくらいだったからだ。どう考えたって計算が合わない。「私だって今のレートがどれくらいかは知ってるよ。それじゃ計算が合わないでしょう?」と聞き返した。するとおじさんはひるむこ

となくこう続けた。「じゃあ 21000 スム渡そう。そして君が手に持っている 500 スム札をおじさんにちょうだい。これで交渉成立だ!」

私がかろうじて持っていたスムは、前回の渡航の際に

友人が記念に、とくれたものだった。もうなんだか寒くて薄暗い空の下、これ以上もめたくもなかったので、しぶしぶ了承した。おじさんは20ドル札と500スム札を受け取り、上機嫌にカフェのドアを開け、私たちを席につかせた。うやうやしく私たちのトランクを窓際に二つ並べ、ウエイトレスに飲み物を注文し、「じゃあ、これで。ごきげんよう!」とおじさんはまた自分の仕事場へと足早に戻っていった。

・・・・・。そりゃあおじさんも上機嫌になるだろう。なんといっても 5000 スムも儲けたんだから。後々、街の両替所でレートを見たら、今は1ドル 1289 スムだった・・・! 日本円にするとおじさんに出し抜かれた金額はたいしたことないが、スムにすると通貨の単位がやたら大きいが故に、余計に損をしたような気分になる。と同時に、こういうお金の稼ぎ方もあるんだなぁ・・・と少し感心してしまった。抜け目がないといえば抜け目がないが、なんだかどうしてもそのおじさんを憎めず、思い出すたびになんだか笑えずにはいられない。

ウズベキスタンの美しき日本語ガイド ヴィーカ

「あらっ、鈴木さんじゃないですか?!」

タシケントを出発する飛行機に乗り込むために、乗客の行列に並んでいたとき、後ろから元気な声が聞こえてきた。振り返ると見覚えのある、綺麗な顔立ちに満面の笑みを浮かべた女の子が立っていた。それは前回の渡航の際に知り合った、現地日本語ガイドのヴィーカだった。ヴィーカは朝鮮系ウズベキスタン人で、初めて出会った時、あまりの日本語の流暢さとその顔立ちから日本人がウズベキスタンに移住をして、ここで日本語ガイドとして働いているのかと思ったくらいだった。「さっき空港で鈴木さんをみかけたんですけど・・。でも本当お人しぶりですね!」とにこやかに、そしてまた流暢な日本語でヴィーカは続けた。ヴィーカは本当に才色兼備で、外見は女優の仲間由紀恵にそっくりで、よく日本からくるお客さんにもそう言われるらしい。当のヴィーカは日

本に来たことがないため、長いあいだ仲間由 紀恵を知らなかったようだ。しかしながら日本 に留学したことがないのに、あそこまで文法は もとより発音まで違和感なく身に着けた彼女の 努力には本当に脱帽である。

「これからウルゲンチに行くんですか?今回もお仕事ですか?」「そう、さっきウズベキスタンに着いて、これからヒワに向かうところなんだ。でも今回は仕事じゃないよ。休暇で来たんだー。」「そうなんですか!そんなにウズベキスタ

ンが好きになったんですね(笑)。」と話は盛り上がる。やっぱり万国共通でいえることだが、同じ歳くらいの女の子が集まると、本当に話が次から次にとめどなく沸いてくる。ヴィーカと私は同い歳だったし、同じ旅行業に携わる人間としても息が合った。

「私は今回もまた仕事なんです。じゃあ、またあとで。ホテルで会いましょう!」ヴィーカは前回出会った時と同様、今回も仕事でお客さんと一緒にタシケントを発つところだった。今回もたまたまそのお客さんと日程が同様だった為、ヒワからタシケントに戻るまでの間、同じ都市を回ることになっていた。今回のウズベキスタンへの旅行は前回の渡航でお世話になった人たちへのお礼まわりも兼ねていたので私はとてもうれしくなった。まさかここで会えるとは!

約1時間半のフライトの後、ウルゲンチの空港に降り立った私たちは、予約していた送迎のドライバーを探した。しかし他の乗客が次々にドライバーと顔合わせをしていく中、私たちのドライバーは一向に現れない。そして、タシケントの空港と同様に、タクシーの運転手たちが次から次に話しかけてくる。待っても待ってもなかなかドライバーが現れないので、仕方がないからこのドライバーの山の中から一人誰かを選んで、ホテルまで送り届けてもらおうかな・・・と思いかけたころ、ヴィーカが向こう側に見えた。

「ヴィーカ!ちょっと聞いてよ。私たちの予約した車が来てないみたいなの・・・。」そう私が言うと、「あら、本当?!ちょっと待ってね。」と私が予約した会社の担当者(といってもその人も私たちの友人なのだが)に携帯で電話してくれ、手を打ってくれた。間もなく私たちの送迎ドライバーが現れ、問題解決。ヴィーカのおかげでスムーズに事が進んだ。無事にドライバーと出会えた私たちは車に荷物を積み込み、ヒワへと向かった。

その日はヴィーカのお客さんと宿泊ホテルが一緒だったので、その日の夜にヴィーカを飲みに誘った。ホテル内にあるバーで少し飲みながら話をした。

「あのね、嬉しいニュースがあるの!」とヴィーカはうれしそうに語りだした。「やっとロシアの国籍とパスポートが取得できたの。これでやっと海外にも出られる・・・。」



実はヴィーカは元々タジキスタンの生まれだった。しかしソ連邦が崩壊して、それまで持っていた『ソ連』という国籍がなくなり、ウズベキスタンに取り残されたヴィーカの一家は、生まれがタジキスタンということでウズベキスタンの国籍も取得できず、かといって新しくでき

た国境を越えてタジキスタンに戻ることもできず、長い間『無 国籍』という扱いを受けていたのだ。それが長い時間を経て、 やっと自分自身の国籍を得られたのだ。ロシア国籍になっ たのは、ソ連時代の遺物や責任は全てロシアが負うという制 度のもとで、そのように決定されたようだ。 この話は私も初めて聞いたので、なぜヴィーカが日本に 来たくても来れなかったのか、どうして日本に留学せずにこ こまで日本語を上達させることができたのか、自然と理解で きた。「きっとヴィーカは他の人のように海外に思うように出ら れなかった分、本当に真剣に語学を学んだんだね。」そう私 が言うと、「え、そんなことないよ。私そこまで努力なんてして ないし。」と、はにかみながら笑った。でも本当に嬉しそうな ヴィーカを見て、私も嬉しい気持ちでいっぱいになった。

その後も、長いあいだ恋人や仕事の話、家族の話などを して、私たちは自分の部屋に戻っていった。

ヴィーカとはその後もやはり各都市で遭遇することが多く、現地で私たちのために民族舞踊ショーの手配をしてくれたりと、いろいろとサポートをしてくれた。本当に感謝だ。

私はヴィーカと出会えて本当に幸運に思うし、私もヴィーカに負けないくらいのガッツを持って何事にも取り組んでいこうと決意を新たにした。ヴィーカとはこれからもずっと友達でいたいと思う。

ブハラのお母さん ナジーラ

ブハラはウズベキスタンの中で私が一番好きな街だ。歴史を感じる建造物はもちろんのこと、リャビハウズという旧市街の中にある池のほとりでゆっくりお茶を飲んでいるときなど、時間が経つのを忘れてしまうくらいゆったりとした気持ちに

なり、気分が落ち着く。そんなブ ハラには私にとって忘れられな い出会いがある。

「私のことをブハラのお母さんと思いなさい!!!」

よく通る元気な声が耳に響く。 前回の旅行で出会った私を、お 昼は街の食堂で、夜は自宅に

招いて手料理をご馳走をしてくれた、まさに『ブハラのママ』。大きな体ににこやかな笑顔。ナジーラを見ると本当にお母さんと対峙しているときのようにほっとした気持ちになる。「あら、また来てくれたのね、私の日本の娘!」と再会するなり大きな体に私を抱き寄せ両頬にキスをしてくれた。

ナジーラはブハラにある『ナジーラ・アジ

ズベック』という B&B を経営するオーナーの奥さんだ。その 良心的な価格やオーナーの人柄の良さから、バックパッカ ーや学生の観光客に人気がある。

今回私は前回お世話になったお礼にと、日本からプレゼントを用意していた。それを受け取るとナジーラは本当に嬉しそうにその包みを受け取り、「まあっ、プレゼントを持ってき

てくれたのね!ありがとう!」とまた私を抱きしめキスをしてくれた。

あらかたの挨拶が済むと、ナジーラから「ところで明日もブ ハラにいるの?実は今日明日に私の息子の結婚式がある



のよ。よかったら参加 してくれないかし ら?」とお誘いを受け た。しかし事が事な だけにはじめは理解 ができなかった。私 の聞き間違いかな、 と思ったのだ。何しろ

私たちがたまたま訪れた日が偶然にもそんな大事に日に重なっているなんて、にわかに信じ難かったからである。

しかしそのお誘いは聞き間違いでもなく、勘違いでもなかった。私は正直戸惑った。結婚式といえば誰にとっても人生における重大イベントの一つだし、何より私はウズベキスタンの観光については少し知識があっても、現地の風習や文化については全く疎かったからだ。何も知らずに行って、失礼なことをしてしまったらどうしよう・・・。そう思い、ナジーラから誘いを受けきれずにいた。

「私なんかが行っていいのかな?何しろ私は皆さんの文 化や礼儀について全然知らないし・・。」 そう言うとナジーラ

はまた大きく笑って、「あら、そんなこと!いいのよ、あなたはただ式に列席して座って、みんなと美味しいご馳走を食べたり、歌ったり、踊ったりして楽しんでくれればいいのよ。」と言った。じゃあ、とお誘いを受けることにしたのはいいものの、今回は会社の研修も兼ねた旅行で仕事をする必要があったため、夜の8時にお宅へ伺い、そこから車で結婚式場に送ってもらうこととなった。

しかし結局ナジーラも相当忙しかったらしく、8時に伺った時にはもぬけの殻で、何人かのナジーラの友人が残っているだけで、迎えの車も来なかった。「本当にごめんなさいね。今彼女はとっても忙しい身だから、きっとうっかり忘れてしまったのね。」とお家に残って留守番をしていたナジーラの友人が残念そうに謝った。

でも実際は少しほっとしたというのが正直なところだった。ナジーラの気持ちは嬉しかったし、息子さんのお祝いもしてあげたかったが、やはりいきなり異文化の冠婚葬祭に参加するのには相当な勇気がいったからだ。

私はナジーラに伝えてくださいと、自分の知っている ロシア語の単語を最大に駆使してありったけのお祝い



の言葉を述べた。

ホテルへ帰る道中、私は改めてナジーラの人柄の良さに 思いをめぐらせていた。何せいきなり訪れた日本人を、会う

のが2回目とはいえ、 自分の息子の結婚式 に招待してしまうのだ から。

今回は残念ながら 結婚式にも参加できな かったし、ナジーラと前 回のようにゆっくりと話



すことができなかったが、次にまた来るときは是非ゆっくりブ ハラのママと話をしたいなぁと思った。

リシタンジャパンセンターの所長ナジロフさんと NORIKO 学級の子供達

今回の旅の締めくくりにと私は前回の旅行で訪れることができなかったフェルガナ地方への旅行を決めていた。フェルガナ盆地はタシケントから西に車で4時間ほど行ったところにあり、カザフスタン、キルギス、タジキスタンという3国に接している地域だ。フェルガナは陶器で有名なリシタン、伝統あるシルク工場を持つマルギランなど、どちらかというと文化的価値の高い地方と言えるかもしれない。

いったいフェルガナではどんな出会いがあるだろうと、私は期待に胸を膨らませていた。

「こんにちはー!」NORIKO 学級に一歩足を踏み入れると子供達が元気に日本語で挨拶をしてくれた。教室の中をのぞくと小さい子供達がまさに日本語の勉強をしている最中だった。

リシタンにある日本語学校「NORIKO学級」は8年前に日本人の故・大崎重勝氏によって創設された。NORIKO学級のNORIKOとは大崎氏の奥さんの名前で、当時この地に赴任していた大崎氏とともに学級の運営に力を注いだ紀子さんにちなんでつけられている。2001年に大崎氏に癌が見つかり、その後闘病生活の末、大崎氏は2005年に他界した。現在は大崎氏の教え子たちが、遺志を受け継ぎ運営している。

この学級は現地の子供達が日本語を学ぶ場となっている わけだが、普通の学校のように学費はかからない。文字通り 無料で学ぶことができるのだ。

子供たちの授業風景を見学させてもらい、NORIKO 学級を出発しようとした時、入り口でこの学級を運営しているリシタンジャパンセンター所長のナジロフさんに出会った。「こんにちは!日本からいらしたんですか?」と目じりの下がった優しい顔が印象的なナジロフさんは握手をしながら私たちを歓迎してくれた。「せっかくいらしたのですから、日本青年

センターにも来てください。」と言われ、私たちは是非とその 誘いを快諾した。

日本青年センターに着くと、ナジロフさん自らがセンター内を案内してくれた。ここも2階が教室になっていて、教室は全部で4部屋。日本語のクラス、英語のクラス、ロシア語のクラス、そしてパソコンを完備したコンピューター室だ。ここも言うまでもなく、無料で地元の子供達が教育を受けられる学びの場である。私が訪れたときも英語のクラスで子供達が学んでいるところだった。私たちが教室に顔を出すと、先生の掛け声で子供達が一斉にたちあがり、大きな声で自分達が今学んでいる英語でようこそと丁寧に挨拶をしてくれた。

センターの1階にはナジロフさんの所長室、先生達の部屋、また日本からくるボランティアの日本語教師を受け入れるための風呂付の部屋が3部屋ほど完備されていた。外には陶器を焼く釜戸がある小屋、シャワー室などがついた屋内体育館などがあり、まさに小さな学校という感じだった。

ひと通りセンター内を案内し終わると、ナジロフさんは私たちにお茶を入れてくれ、様々なお話を聞かせてくれた。今までここで教鞭をとった日本人ボランティアの人たちの話、ここを巣立って立派に社会で活躍している卒業生の話、そして今 NORIKO 学級が窮地に立たされているという事・・・。

無料で学べる学校というのは、貧富の差など関係なく、どんな子供でも外国語が学べるチャンスがあるという最大のメリットがある一方、無料であるために学級の維持、運営に困難が生じるという問題があるのも事実だ。現にスポンサーがいない中でこの学級を運営していくのは難しいとナジロフさんは言っていた。そんな中、少しでも学級の維持費を稼ごうと、リシタンという土地柄を利用し、ナジロフさんの弟さんが陶器の作り方を学級で学ぶ子供達に教え、子供達が陶器を作りそれを学級で販売しているのだ。

「鈴木さんも是非ここで日本語を教えてみませんか?科目は何でもいいんですよ。折り紙でも音楽でも、教えてくれるならいつでもビザを発行しますから!」と、冗談は一切抜きでナジロフさんは真剣に私に提案してきた。今学級が直面しているのは維持費の問題だけでなく、日本人の教師が不足しているという問題もあったのだ。もちろんここで日本語

を教えるからに は全てボランティアで行わない。 実際私たちももが、ま際れた時がが日お をず、この卒業生が先



生として子供たちに教えていた。

しかしこの NORIKO 学級は、ロシアをはじめ旧ソ連地域

で行われている日本語コンクールにおいて数々の優秀な成績を収めているのも事実だ。それで様々な人々の注目を集め、ガイドブックの地球の歩き方にもこの学級の記事が載ったし、つい先日も読売新聞などに取り上げられている。

私はこの学級を創設した大崎氏の志に思いを馳せながら、 ナジロフさんの話を聞いていた。そして話を聞けば聞くほど 絶対にこの学級を存続させたい、大崎氏の想いも子供達の 学びの場も守っていきたいと強く思った。

私たちは最後に青年センターの前で記念撮影をし、ナジロフさんが冬に日本を訪れる予定で、その際千葉県にある友人宅にお世話になるという話を聞き、日本での再会を約束してリシタンと日本語学校を後にした。

旅をすることで得られるものはたくさんあるが、その中でも、 美しい景色や歴史深き遺跡を観ることで得られる感動、そして何よりも現地の人々との出会いや交流は大きな旅の醍醐味であるう。

今回は冒頭でも述べたとおり、私にとって2度目のウズベキスタン訪問であったが、再会と新たな出会いを繰り返し、初めての訪問に負



けないくらい感動を覚え、そしてやはりまたウズベキスタンを 訪れたいという想いは高まるのだった。

(JIC 東京 鈴木美幸)

マリインスキー・オペラ 2008公演

ムソルグスキー「ホヴァーンシチナ」

1月26日(土)14:00~ 東京文化会館

1月27日(日)14:00~ 東京文化会館

プロコフィエフ「3つのオレンジへの恋」

1月28日(月)19:00~ 東京文化会館

1月29日(火)19:00~ 東京文化会館

ロッシーニ「ランスへの旅」

1月31日(木)19:00~ 東京文化会館

2月2日(土)12:00~ 東京文化会館

ボロディン「イーゴリ公」

2月1日(金)18:30~ NHKホール

2月2日(土) 18:00~ NHK ホール

2月3日(日)14:00~ NHKホール

主催:テレビ朝日、朝日新聞社、ジャパンアーツ

特別協賛:野村グループ

http://www.japanarts.co.jp/html/2008mariinsky_oper a/index.htm(ジャパンアーツ HP)

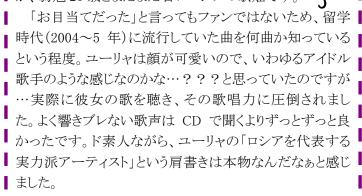
--Russian Night--

Russian Young Generation Program 2007 in JAPAN

去る9月8日(土)、ロシアと日本の文化交流イベント「ロシア文化フェスティバル2007 in JAPAN」のプログラムのひとつとして行われた「ロシアンナイト」に行って来ました。

DJ+アーティストライブというスタイルのクラブイベントで、 ロシアからはユリヤ・サヴィチェヴァと SCSI-9(スカジー・ナイン)、日本からは土屋アンナさん、高城剛さんという豪華 アーティストが勢揃い!!!

私は大学時代の友達 3 人と一緒に行った のですが、私たちの 1 番のお目当てはやっ ぱり「ユリヤ・サヴィチェヴァ」(愛称ユーリャ)。 ロシアファンならご存知の方も多いと思います が、弱冠 20 歳とまだまだ若いロシアの歌姫です。



ちなみに曲目は"Высоко" "Пока" "Если в сердце живёт любовь" "Believe me"…などなど。



最後には土屋アンナさんとコラボレーションして邦楽も歌ってくれました。

ロシア人アーティストの歌を生で、 しかも日本で聴ける機会はそうそう

■ ないと思います。ロシア人も日本人も一緒になって楽 ■ しめた、貴重なひとときとなりました。次回このような機 ■ 会があれば、皆様も是非ご参加下さい^^v。

(JIC 大阪 五十嵐真夕)

JICは頑張る人を応援します

旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方は JIC までご相談ください。イベント時期の約2ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11月の6回となります。

掲載内容が JIC の活動に合わない場合はお断りする場合もありますのでご了承ください。

バレエダンサーから監督へ

~イーゴリ・ゼレンスキー インタビュー~

インタビュアー:加藤 裕理

ベルリン国立劇場のウラジーミル・マラーホフ、グルジア 国立オペラ劇場のニーナ・アナニアシヴィリ、そして日本で はレニングラード国立バレエの名でおなじみのミハイロフス キー劇場のファルフ・ルジマトフなど、近年、大物ダンサー のバレエ団監督就任が相次いでいます。今回ご紹介するイーゴリ・ゼレンスキーも、昨シーズンからロシア国立ノヴォシ ビルスク・バレエの監督を務めています。彼らが何を考えて、 今どうしているのかは気になるところ。ノヴォシビルスクへ旅 した際に見つけたこのインタビューでは、ダンサーが監督に 転身するというのはどういうことなのかが詳しく語られていて 興味深いものでした。インタビュー自体は 2007 年 6 月のも のですが、ノヴォシビルスク劇場の許可を得ることが出来た ので、ご紹介しようと思います。



――「世界で最も優れたダンサーの一人であるイーゴリ・ゼレンスキーが、どうしてノヴォシビルスクへやって来たのか」「ここで一体どういうことをしているのか」とよく尋ねられます。 あなただったらどう答えますか?

私はこの状況をとても喜んでいますよ! 詳しく説明して みましょう…私は今 37 歳で、もちろん今までどおり踊り続け

ることは出来ますが、いずれにせよ遠からず舞台から去らなければならなくなるでしょう。これは既に私がアーティストとしての魅力に欠けるということではなく、あくまで肉体的にどうかという話です。年齢とともに、私たちダンサーの身体は、その職業が与える大きな負荷に耐えることが難しくなっていきます。32歳のサッカー選手は既にベテランですし、テニス選手もそうです。そういう見方をすれば、バレエとプロ・スポーツはそれほど遠くはありません。指揮者で35歳といえばま

だ駆け出しですが、バレエにおいては既に自分のキャリアを完成させる時期でしょう。そのことを差し引いてもバレエは 残酷な芸術です。そしてそれを直視しなければならないのです。

当然、私も自分の将来について思い悩んだことがありました。異なる分野の職業には多分スムーズに転身出来ないだろう、ということはよくわかっていました。今のところ、私はま

だ現役のダンサーで、多くの人が私を知っています。舞台を去ってからも、数年間は人々の記憶に残るでしょう。しかしその後は?これ以上の満足は他のどんなビジネスからも得られない、そういう最大級の幸福感をダンスは舞台の上で与えてくれました。これはどこにいても何をしていても、もう得られないものだとわかっています。ただ一方で、年齢という資格制限があるのが、自分が身を置いている芸術なのだ、ということもまた納得しているのです。だからこそ、自分という人的資本の全てを注ぎ込むのは、自分が愛していてよく知っているものの方がいいのではないかと思ったのです。自分という資本とは、自分の到達した芸術性、名声、才能ということですが、究極的には自分の名前もそれに値するものであればと思います。

しかし、今日世界には名声と柔軟性を兼ね備えた劇場はありません。ですから、世界最高峰とまではいえない劇場を選んで、そのバレエ団のレベルを引き上げようと思ったのです。無駄なあがきに終わるかもしれませんが、私がノヴォシビルスクに来たのは自分自身で決めたことです。第一線を退いた、という意識はありません。

――様々なカンパニーで働いてきたあなたの経験は膨大なものですが、ここにはどういうプランを持ち込みたいですか?

ボリス・メズドリッチ(注: ノボシビルスク劇場総裁)からのオファーは全く予期していないものだった上に個人的な事情もあって、本腰を入れて仕事に取り組み始めてからまだーヶ月半しか経っていません。ですから今はまだ、目の前で起こっていることをもらさず見て、どこにどういう可能性が眠っているのか、自分なりに状況を見極めて戦略を練っている段



<ノヴォシビルスク劇場外観>

階です。ですが、これから先、 円満に自分がこうと思う道筋 に導くためには、整理しなければいけない事柄が沢山ある のはわかっていますよ。劇場 が向かうべき道筋を好きに選 べるのが監督ですが、私は自 分が正しい道を選ぶと確信しています。それは時が明らか にしてくれるでしょう。

私は、取り繕って「何をど

う変えるべきか誰よりも知っている」顔をしようとはしません。実際、仕事をしてきたカンパニーの質・レベルともに私の経験は膨大なものです。ですが、言ってみれば私は監督としては若輩であり、学ばなければいけないことはまだまだ多くあります。自分のなすべきことを全て間違いなくやり通す、など言うまでもなく不可能です。ダンサーとしてのキャリアは、監督業とは全く異なるビ

ジネスですから。今、私は全ての人々・事柄に対し責任を 負っています。いまや私がノヴォシビルスクにいるという情報 がすでに主要な劇場に届いていると知ると、監督として嬉し くなりますね。

――私たちのバレエのどういう面を取り上げて、長所と短所があると思いますか?それははっきりした相関図ですか?

この一面がはっきりしていてこの面がそうでない、と断言は出来ません。ノヴォシビルスクそのものに話を拡大しても構いませんが、インフラ整備など、全ての根となっている状況は普遍的です。ご存知のように、文化を発信していくことに関しては、ノヴォシビルスクは世界各国の首都にも、またロシアの首都にも遅れをとっています。人口150万の都市では、生活水準・文化的水準も、文化に対する需要も、世界の巨大都市と全く同様、というわけにはいきません。世界でもトップクラスのバレエ団といえば、N.Y、ロンドン、パリ、モスクワ、ペテルブルクに位置しているでしょう。生活のあらゆる局面にまたがる多くの要素を揃えてやっと、ノヴォシビルスクのバレエ・ダンスは次のレベルに移行できるのです。

もちろん、ここには多くの才能あるバレエ教師・ダンサーがいますが、今のこのレベルに甘んじていたくはない。いまや私たちは前を見て、その先へ進みたいのです。最高峰のバレエ団に遅れを取るまいと追いかけるのではなく、ただ自分のなすべきことにキッチリ全力を尽くして取り組むべきです。

マリインスキー劇場やボリショイ劇場にはまた違った可能性があるのはわかっています。資金も伝統も名声も、そして他の多くのものが備わっているのですから、バレエ学校の卒業生が皆これらの劇場に採用されようと努力しているのはもっともなことです。そして最も才能と根気に恵まれた若者がヨーロッパを見て、そこの素晴らしいカンパニーで働きたいと熱望しています。

ですから今現在、優れたソリストを招いて長期契約を結ぶことは難しい。私自身のケースとは異なって、シベリアに行くということはダンサーにとって一大決心なのです。何か特定の公演のためだけにゲストとして招待する分には問題はありませんが――確信を持って言います――それでは突破口にならない。もちろん、こういったゲスト出演はバレエを育てる助けにはなります。バレエ学校の生徒が観ているし、観客も観ている。百聞は一見に如かず、キーロフ(注:マリインスキー劇場の旧称)やボリショイのトップ・ダンサーを生で観るのが、話に聞いたりビデオで観たりするよりいいのは当たり前です。それでも、繰り返しますが―-根本的な解決にはなりません。

――どうすれば状況を変えられると思いますか?

こういうポストに就いていると、周囲はみな、目に見える何

らかの結果がすぐに現れることを期待しますが、それは不可能です。私たちは自らの可能性を活かして、一歩一歩努力していかなければなりません。テレビやインターネットによって、観客が舞台の質を比較することが可能になっているだけに、もしその踊りが相応のレベルに達していなければ観客を魅了することは難しい。ですから、そのレベルの公演を供給することが私の主な課題です。私自身は一度もそういったことはないとはいえ、最も恐ろしいのは客がまばらな公演で踊ることですから。

状況をより良く変えていくために、私は仲間を必要としています。こういう仕事では全てを気にかけなければいけないのはおわかりでしょう。ダンサーとしては、ただ自分が舞台でどう見えるかだけを案じていればよかったのですが、今は全く違う目でバレエを見て、文字通り全て――照明、装置、ソリストなど、バレエと名がつくもの全てを気にかけなくてはいけません。言うまでもなく「戦場では一人では戦えない」(ロシアの諺で、"何事も一人では出来ない"の意)ので、助けてくれる人が必要です。仲間は一日二日で出来るものではないと承知の上ですが、私は理想を持った人間を必要としています。どんなに難しくても、そういった人間を探して私たちの陣営に引き込むつもりです。

総じて、優れた演出家、優れた美術担当、優れた振付家を呼ぶ必要があるでしょう。自分自身で振付をしないのか、と聞かれますが、もしやりたいのならとっくにそうしていたでしょう。先ほど述べた私の課題にあたっては、自分で振付をするよりも世界的巨匠の作品をノヴォシビルスクで上演していくほうが重要です。しかし残念なことに、バランシンやベジャールに匹敵する振付家が突然ロシアに現れ、創作の場を得るとは考えにくい。ロシアはこれまでずっと閉ざされた国であり、若手に創作の機会を与えることはありませんでしたから。今やっと全てが動き出したのです。私たちの劇場が、若手振付家の創作の場になればいいとも思っています。

----ノヴォシビルスク・バレエ団の最近のムードをどう評価 していますか?

若いダンサーたちはみな、働いて働いて働かなければいけないことをわかっていますよ。そしてしかるべき努力をすれば、外国の劇場から誘われることも、ゲストに招かれることも出てくるでしょう。これも少なからず重要ですが、世界各国の首都に優れたプロダクションを持っていくことも重要です。しかし私たちの目標は、何よりもまずそのプロダクションを作ることなのです。もちろん、そのためには多くの困難が待っているでしょう。

今私に課せられたハードルは理不尽なほど高いですが、私が求めているものもまた高度なものです。私自身、 幾度となく素晴らしい振付家の作品を踊り、巨星とも言えるダンサー達のパフォーマンスを観てきましたから。 いい結果を勝ち取るためにどんなサイクルが求められるのか語れば、バレエがどれだけ容赦ない世界なのか見て取れると思います。ある朝、その日の夕方踊ることになっているバレエのリハーサルをして、そして公演後はすぐに明日の公演のリハーサルをして、そして翌朝またリハーサルをして、こうして日を継いでいかなければいけません。

それだけではありません。私たちのバレエ団と仕事をすることになるかもしれない人々、プロモーター達と接していかなければなりません。ダンスという市場はとても難しい。メトロポリタンやロイヤル・バレエなどと仕事をしてきましたから、そういった職業の知り合いは多いです。ただ、今後は自分のリサイタルの話ではなく、バレエ全体のことについて話していくことになるでしょう。去年12月、ロンドンで公演を行った時の話ですが、プログラムを引き伸ばすためのイギリス人アーティストは簡単に捕まえることが出来たのに、ノヴォシビルスクから若手ダンサーを呼ぶのは一苦労でした。ゆくゆくは「ノヴォシビルスク・バレエ団」を招聘して欲しいと思いますが、しかしそのためには新しい仕事に取り組む必要があります。これについては先ほどお話した通りです。

――この後、ニュース性のあるトピックスとして「バヤデルカ」 (人気の高い古典バレエです)の新制作について語っていますが、すでに 12/15、/16 が初演のため、割愛させていただいて、最後の言葉だけご紹介します。――

「他にも、私たちの劇場を本拠地にしたバレエ・フェスティバルもまた、この街にとっては不可欠だと思っています。ハイレベルなバレエ団は街全体にとっても必要なものですから。私はダンサーやバレエ教師とともに、ノヴォシビルスク・バレエが今のこのレベルから脱出できるように努力していくつもりです。」

ノヴォシビルスク劇場

以前から定期的に来日しているバレエ団ですが、日本ではあまり知られていないバレエ団ではないかと思いますので、今回実際に訪問した時の感想を含めて、ご紹介しようと思います。

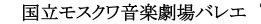
まず、第一印象は一一巨大!です。単純に敷地面積でいくとモスクワのボリショイ劇場の上をいくそうですが、それだけではなくて地方都市の劇場としては趣きが異質です。ドーム型でマリインスキー劇場と似てはいますが、威圧感があって、どことなく男性的な印象を受けます。客席内もまるで国際会議場のようで迫力なのですが、公演が始まるとその雰囲気がガラっと変わります。オペラでは『スペードの女王』、バレエでは『コッペリア』『フォーキン・プロ』を観ましたが、女性コーラスが繊細で美しく、全般に趣味がよくて優美な印象。このソフト(カンパニー)とハード(劇場)のギャップが面白いなと思いました。

大雑把な略歴ですが、建物自体はグレンベルクの設計で1945年完成、最近大規模な改修工事があったばかりです。現在63シーズン目。他のロシアの国立バレエ団と較べると歴史は浅いほうですが、国家からの補助金支給対象に認定されている劇場です(地方都市ではあとエカテリンブルクだけ)。つまり国家事業なので大規模なプ

ロダクションも可能なわけで、 ロシア国内でも間違いなくト ップクラスの劇場ですし、装 置・衣装にも気を配ってくれ ているので、日本人好みの 劇場ではないかと思います。



スタニスラフスキー&ネミロヴィチ=ダンチェンコ記念



管弦楽=国立モスクワ音楽劇場管弦楽団

2007 年 12 月 22 日(土)~24 日(月·休) ワイノーネン版『くるみ割り人形』 2007 年 12 月 27 日(木)~30 日(日) ブルメイステル版『白鳥の湖』

東京国際フォーラム ホール C チケット: S 席¥15,000、A 席¥11,000 B 席¥9,000、C 席¥5,000

公式 HP:http://www.mmtb.jp/

お問合せ先:

キョードー東京 03-3498-6666



レニングラード国立バレエ 東京公演

2007年12月23日(日)~ 2008年1月26日(土)

会場:

₋ 東京国際フォーラム(A) ₋ Bunkamura オーチャードホール 東京文化会館

」演目:

、「白鳥の湖」「新春特別バレエ」 、「くるみ割り人形」「眠りの森の美女」 、「バヤデルカ」「ドン・キホーテ」 、主催:光藍社 03-3943-9999

http://www.koransha.com/

ロシア語短期研修体験記

元ルジャーヴィン・インスティテュートで学んで

インフォメーション読者の方の中には、ロシアで本場のロシア語を学んでみたいなぁ・・・とお考えの方もきっと多いのではないでしょうか。でも実際留学となると時間がない、費用がかかりそう、ロシア語初級者なので不安、といった理由でためらっていらっしゃる方もきっと多いはず。では1週間からはじめられる短期の語学研修ならいかがでしょうか。まるで旅行に行くかのように気軽に、ロシアの家庭でホームステイしながら学校に通ったり、ホームスタディーしたりして、ロシア語を学ぶことが可能です。

でも、実際どんなところで、どんな授業が受けられるのか、ということは実際に体験してみないと分かりづらいもの。そこで今回、私が休暇を兼ねて訪れたサンクトペテルブルグで、デルジャーヴィン・インスティテュートの短期グループレッスンを 1 週間体験してきましたので、その様子を皆さまにご報告したいと思います。

デルジャーヴィン・インスティテュートについて

デルジャーヴィン・インスティテュートは、全ロシアプーシキ

ン博物館の協力により、2003年サンクトペテルブルグに設立された、外国人向けにロシア語を教える語学スクールです。ペテルブルグの歴史景観地区に位置



し、18 世紀に建てられた建物内で学びます。まわりには壮麗な建物が立ち並び、フォンタンカ運河がゆったりと建物の前を流れます。学校はデルジャーヴィンセンターの中に位置し、そこにはロシア文学の博物館をはじめ、劇場、図書館、ホテル等が併設されています。この恵まれた美しい環境の中で学べるというだけで、ペテルブルグでロシア語を学ぶ価値が大いにあるといえるでしょう。では早速、初日の様子からレポートしたいと思います。

いよいよ授業初日!

10月8日月曜日。季節は「黄金の秋」。厳しい冬に入る前の、ほんの束の間、ロシアが一年で最も美しい季節といわれています。気温は昼間でも5~7度、日が沈むと0度近くにまで下がりますが、空気がキーンと澄みきっていて、とても気持ちのよい気候です。

授業は毎日9時30分から始まります。デルジャーヴィンに通う学生の多くはホームステイをしており、みんなそれぞれの方法で通学しています。学校までは地下鉄の駅から徒歩約10~15分。やや遠いと思われるかもしれませんが、フォンタンカ運河沿いにゆっくりと、眼前に広がるパノラマを楽しみながら登校できます。学校に到着すると、初日はまずグル

ープを決定するためのプレースメントテストがありました。 先生との簡単な面接があり、ロシア語の勉強をはじめた理由など自分について自由に話した



後、先生から幾つかの質問を受け、それに答えていきます。 面接の後は筆記試験です。この面接と筆記試験の結果から、 各々のレベルにあったグループに入ることになります。私は B1というグループに入ることになりました。

11 時からの 30 分間が休憩時間です。この日、幸運にもイタリアからの留学生のお誕生日だったため、先生お手製のケーキが振る舞われました!今では日本でもすっかりおなじみになりましたチェブラーシカの「わにのゲーナの歌」をみんなで歌いました。日本人の私たちには、どこか物悲しい歌のように聞こえますが、ロシアではみんなで楽しくお誕生日のお祝いのときに歌います。外国人の私たちも、歌の一番最後の部分、「残念だけど、お誕生日は一年に一度だけ」という部分を大合唱し、お祝いしました。その日が研修第1日目だった私も、先生と生徒たち入り乱れてのバースデーパーティーに、すぐに打ち解けることができました。

*時間割(B1グループ)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
9:30-11:00	会話	文法	地域 研究	文法	文学
11:30-13:00	会話	リスニ ング	語彙	リスニ ング	文学

楽しい休憩時間が終わると、さっそく2時間目から授業に参加します。この日の授業は「会話」です。この学校の教室には、それぞれロシアの都市や地方の名前が付けられていて、私の参加するB1グループの教室は「カレリヤ」でした。

教室内には、キジー島をはじめとするカレリア共和国の写真や地図が壁一面に貼ってあります。クラスメイトは、イタリア人、オーストリア人、ドイツ人、イギリス人、そして私の 5 人。みんな、国籍や年齢、職業、ロシア語の勉強をはじめたきっかけは様々です。

この日のテーマは、それぞれの母国の「祝日」について話しましょう、というものでした。先生のレーナは、日本に何度か来たことがあるという親日家で、私は先生にリクエストされた「女の子の日」すなわち桃の節句について、それから



「男の子の日」すなわち端午の節句についてクラスで話しました。クラスメイトたちは、私の話の中の『桃の節句が終わったらすぐにひな人形を片付けないと、そ

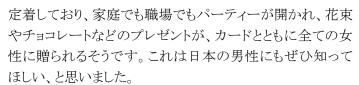
この家の女の子はお嫁にいけなくなる、という言い伝えがある』というエピソードが最も印象的なようでした。

他のクラスメートたちは、クリスマスやイースターなど、それぞれの国の祝日について話してくれ、最後に先生からは、

ロシアの代表的な祝日を教えてもらいました。

ロシアには2月(あるいは3月)に、復活祭の7週間前に7日間行われる、長い冬の終わりと春の訪れを祝うマースレニッツァと呼ばれているお祭りがあります。マースレニッツァの週には、「ブリヌィ」というロシア風クレープを焼きます。この丸い形が太陽の形に似て

いるので、春をイメージしてお祝いをするそうです。この祭りが終わると復活祭までの間、肉食を断つ期間がはじまるので、マースレニッツァではみんなで思う存分飲んだり食べたりするそうです。また、3月8日は女性の日です。ロシアではお祝いの行事として



文化プログラムも充実!

課外授業の文化プログラムも充実しています。10月8日から13日までのスケジュールは以下の通りです。先生達が熱

心に誘ってくれるので、私は歌の授業に参加しました。校内で行われる歌の授業や映画鑑賞会のほかにも、市内の観光地へのエクスカーションや、美術館や博物館の見学。週末には、近郊の都市への小旅行も毎週企画されています。

* 文化プログラムスケジュール(10月8日~13日)

10月 8日 14:00~ペトロパブロフスク要塞観光

10月 9日 13:10~ロシアの歌の授業

10月10日 13:30~ プーシキンの家博物館見学

10月11日 14:00~アンナ・アフマートヴァ博物館見学

10月12日 11:00~修了式

14:00~映画鑑賞会

10月13日 11:00~ガッチナ観光

毎週金曜日は修了式

こうして 1 週間の授業を終え、毎 週金曜日の休憩時間には「修了式」が行われます。その週で研修を終える生徒達に、修了証書が授与



されます。この日卒業するのは、私も含めて計 3 名。みんな の前で、この学校での思い出、先生への感謝の気持ちなど 思い思いのことを話します。そしてもちろんまたケーキが出 てきて、みんなでパーティーをしました。こうして、私のデル

> ジャーヴィン・インスティテュートでの 1 週間の語学研修は終わりました。

> いかがだったでしょうか?少しでも皆さんにロシア語研修の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。ここでは若い学生さんから年配の方まで、そして様々な国からの生徒が一同に集まっ

ていたので、めまぐるしく毎日が過ぎ、アットホームな雰囲気の中で楽しくロシア語を学ぶことができました。実を言うと、たった1週間だけの研修でしたので、ペテルブルグでは長期留学の経験がある私でも、授業に慣れるだけで精一杯という感じでした。もっとしっかりと語学力をアップさせたいという目的をお持ちの方には、1ヶ月程度からの滞在をおススメします。また、デルジャーヴィン・インスティテュート

の一般グループレッスンは通常13時に終了するので、午後に観光をしたいとお考えの旅行者にもおススメです。皆さんもロシア人家庭にホームステイをしながら、気軽に本場でロシア語を学んでみませんか?

(JIC 東京 富樫万里枝)

JIC ではデルジャーヴィン・インスティテュートの他、様々な 短期研修プログラムをご用意しています!詳細はP15!!





JICモスクワ通信vol.8

青年住宅地サブーロヴォー

今年9月にサブーロヴォ青年住宅街の創立20周年を祝いました。サブーロヴォって何かといいますと、モスクワ南部に

位置する団地の名前です。 イワン1世がモスクワ公だっ

イリン1世がモスクリ公たったとき(1325-1340)、キプチャクハン国の内乱で死を免れようと、チェット公は家族と一緒にモスクワ公国へ行ってしまいました。チェット公には息子が2人おり、その中の1人はサブールといいました。サブー



<サブーロヴォの住宅街>

ル(sabur)はタタール語で「アロエ」を意味します。そのサブールの子孫は、サブールという名前に、よくあるのロシア苗字の語尾「オフ」(ov)を付けて、サブーロフになりました。サブーロフ家はモスクワ大公(その後のロシア皇帝)からコロメンスコエ村の近く、モスクワ河岸の分与地を与えられました。サブーロヴォ(Saburovo)は、「サブーロフ村」を意味してい



<聖ニコライ教会>

ます。サブーロフ家は、15世紀末にかなり有名な氏族になりました。ソロモニヤ・サブーロワはワシリー3世と結婚し、エヴドキーヤ・サブーロワはイワン・イワの長男のイワン・イワ

ノヴィチと結婚ました。氏族はボリス・ゴドゥノフの親戚でもありました。1595年にサブーロヴォでは木造の聖ニコライ教会が建設されました。ピョートル1世時代になると、サブーロヴォはモルダヴィア公のディミトリエ・カンテミール公の所有地になりました。ナポレオン戦争のときに、ジョアシャン・ミュラ

元帥がサブーロヴォで食事をした記録が残っています。19世紀にモスクワは広くなり、サブーロヴォの近くにモスクワ・クルスク鉄道がひかれ、モスクヴォレチエ駅(モスクワ川駅)が建設されたので、多くのモスクワ市民はこの辺りに別荘を買ったりしていました。第2次世界大戦の1941年に、サブーロヴォには8キロの防衛線がひかれました。

戦後、サブーロヴォはモスクワの一地区になり、もとの村だ

った場所には労働者町もできました。80 年代に住宅難が高まり、この近くの市民はもとの村のところで団地を建設しようと主張しました。その時期には、工場などで働き始めてから20 年以上もたった後にアパートを手にするということは、ごく普通のことでした。若者のうちに自分のアパートを入手するのはほぼ不可能でした。ただ、ペレストロイカが始まり、自分の手で自分のためにアパートを建設しよう、という熱狂

者たちが現れました。彼らのねらいは、住むための建物を

建設するだけでなく、 学校など色々な施設 もつくり、そのいわゆる「青年住宅街」で皆 で一緒に暮らす、と いうことでした。1987 年、サブーロヴォ青 年住宅街の建設がは



<教会跡地に建てられた倉庫>

じまり、5 年間ほどかけてサブーロヴォは完成しました。そのときに建てられた学校は、その時点でヨーロッパ最大の学校でもありました。聖ニコライ教会は、多くの教会のようにソ連時代に破壊され、その跡地に「エネルギー鉄金属」会社の倉庫がつくられましたが、90 年代の初めに美しい聖ニコライ教会は再建されました。

現在、その青年住宅街を提案し建設したかつての若者たちはすでに年をとり、彼らの子供たちがいま新しい世代の若者となり、自分のふるさとであり長い歴史を持つサブーロヴォを、いつまでも美しいところとして保存するように頑張っています。

(JIC モスクワ トカチェンコ・ドミトリー)



~ロシア語劇団の公演日程~

日時:2007 年 12 月 15 日(土)、16 日(日) (ロシア語劇団の公演は、16 日(日)の 14:30~16:30 です) 場所:新開地 アートビレッジセンター(通称 KAVC) チケット:前売り、当日とも 500 円(両日有効)



毎年恒例の語劇祭、その日がだんだん近づいてきました!今年も日頃のロシア語学習の成果を披露したいと思います!今年の演目は・・・エヴゲニー・シュヴァルツ作「Teнь 影 ~三幕のお伽噺~」です。かなり本格的

な劇で、いつも学生さんたちの演技力とロシア語力には ビックリしてしまいます。もちろん、皆さんに楽しんでいた だけるよう字幕の用意もあるようです。お時間のある方は ぜひ観にいってみて下さい!

JICロシア語セミナー2007「ロシア語を勉強する君へ」



11月17日(土)、新 宿オークタワーにて IIC ロシア語セミナーが本年 も開催されました。今回 講師としてお迎えしたの は、上智大学の徳永晴 美教授。徳永先生はロ

シア語同時通訳界のパイオニアとして知られ、あの故・米 原万理さんにも「師匠」と呼ばれていました。

セミナーの会場にはロシア語を学んでいる学生さんだけ でなく、社会人の方、また30年来ロシア語の学習をされて いる方など、様々な立場や年齢層の方に多数集まってい ただきました。

徳永先生らしい熱のこもった講演に、参加してくださった 方のアンケートには、「元気の出る講演をありがとうございま した」「やる気が出ました」などの声がたくさん寄せられまし

た。このセミナーの内容につき ましては、次号以降、このイン フォメーション誌に掲載予定で す。ご期待下さい!

講演会の後には、実際に留



学を考えておられる方や JIC のロシア語講座についてお知 りになりたい方に、会場に残っていただき、JIC のスタッフに よる JIC 留学の説明や個別相談の時間を設けました。熱心 にいろいろ質問してくださる参加者が多く、スタッフ一同「多



くの方に充実したロシア留 学を体験してもらいたい」と の思いを強くしました。今回 ご参加いただけなかった方 も IIC オフィスで個別相談 を受けております。お気軽 にご連絡下さい!

* * * JICO> 7 語聞座 好評問講中!***

IIC のロシア語講座をご存知ですか?東京・大阪各会場にて現在、後期講座が開講中です。途中からの受講も可能 ですし、ご希望の方は見学もしていただけます。ロシア語学習に興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせ下さい!

* TEL: 03-3355-7287

<入門 I > 火曜日 19:00-20:30

<入門Ⅱ>月曜日 18:30-20:00

級>月曜日 19:00-20:30 <初

級>水曜日 19:00-20:30 <中

<上級講読>木曜日 18:50-20:20

<上級会話>金曜日 18:30-20:00

<土曜講座 2>土曜日 12:00-13:30

受講料:54.000円

(全 18 回)

場所:ロシア情報センター

(東京・四谷)

<入門>火曜日 19:00-20:30 受講料:35,000 円 (全 15 回)

<初級>木曜日 19:00-20:30 <中級>金曜日 19:00-20:30

場所:JIC 大阪オフィス

(大阪・天満橋)

<上級>月曜日 19:00-20:30

詳細は、JIC 東京・大阪各オフィスまで資料を ご請求下さい!



ЯПОНСКИЙ ЯЗЫК

Вводный и начальный курсы в центре Токио Преподавание на русском языке! ~ロシア語で教える日本語講座 2 学期開講中!~

クラス:入門クラス / 初級クラス

学 期:各クラス 10月 16日(火)~12月 14日(金)までの全 17回

授業料:各クラス 51,000 円(17 回) 1授業 3,000 円 授業日:毎週火曜・金曜の週2回(祝日は休講)

授業時間:1 授業 90 分 初級クラス 13:30-15:00

入門クラス 16:00-17:30

会場:ロシア情報センター(東京・四谷)

詳細は JIC までお問合せ下さい。TEL:03-3355-7294

寒い冬には温かいロシア料理を・・・

ロシア家庭料理 レストラン ニーナ

最近、福岡にオープンした新しい ロシア料理店です。お値段はお手ご ろながら、味は本格派!ぜひお試し 下さい。

Address: 福岡市中央区天神 3-14-9

公建ビル 6F

Tel/Fax:092-714-0215

近くへ来られたら 寄って下さいね!!

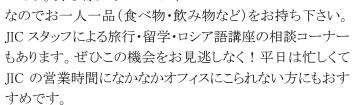


ロシア情報

~JIC7I7-@OSAKA~

在阪のロシア人(旧ソ連圏)の方々や、ロシアファンの日本人がたくさん集まる毎年恒例の JIC フェアー。今年の冬も開催いたします。情報交換の場として、またお友達をつく

る場としてどうぞご活用下さい。 ロシア語を学んでいる方にとって は、授業や教室では使わない日 常のロシア語を話してみるチャン スです。持ち寄り式のパーティー



日時:12月16日(日)13:00~17:00

会場:ドーンセンター(大阪・天満橋)5階

参加費:1,000円(当日受付にてお支払い下さい)

お申込:12 月 14 日(金)締切り 電話・FAX・メールなどで

JIC 大阪オフィスまでお申込ください。

TEL:06-6944-2315 FAX:06-6944-2318

E-mail:jicosaka@jic-web.co.jp

~口シ7語留学相談会~

JIC では、ロシア語留学相談会を12月と1月に以下の日程で開催します。ロシア語留学をお考えの方、現地事情や

詳しい情報が欲しい方、 お気軽にご参加下さい。 ロシア留学経験のあるスタ ッフが丁寧にご相談に乗 ります。

JIC の願いは、一人でも 多くの方に充実したロシア

留学を体験していただきたい、ということ。現地の大学と直接交渉して留学手続きを進めておられる方や、大学間交流で留学を考えていらっしゃる方にも、JIC の

経験と情報を提供します。お気軽にご参加下さい。



日時:ご希望の方は、必ず相談に来られる時間を事前にご 予約下さい。

東京 オフィス 12月8日(土)10:00~14:30 1月12日(土)11:00~16:00 1月26日(土)11:00~16:00



1月12日(土)13:00~16:00 1月26日(土)13:00~16:00



会場:東京・大阪 各オフィス

お問合せ先:東京 Tel:03-3355-7294 Fax:03-3355-7290

E-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

大阪 Tel:06-6944-2315 Fax:06-6944-2318 E-mail:jicosaka@jic-web.co.jp



サンクトペテルブルグ 国立ロシア美術館展

開催場所:大阪 サントリーミュージアム[天保山]

http://suntory.jp/SMT/

開催期間:2007年11月20日(火)~2008年1月14日(月・祝) 開館時間:午前10:30~午後7:30(最終入場は午後7:00まで)

休館日:月曜日(11月26日、12月24日、1月7日・14日は開館)

入場料:大人 1,200 円 高・大学生、シニア(60 歳以上)900 円

小•中学生 500 円

主催:サントリーミュージアム[天保山]、産経新聞社

世界最古の電子楽器「テルミン」のコンサートとサントリーミュージアム[天保山]の学芸員による展覧会の見どころトークがついたイベント!!

日時:12月22日(土)15:00~17:00頃

会場:海遊館ホール

出演:テルミン奏者・竹内正実ほか

入場料:2,000円(国立ロシア美術館展

入場料込み)

お問合せ先 TEL:06-6577-0001



Cのロシア語 新パンフレット続々登場!

こ布室の力には、 無料でパンフレッ トを送付いたしま す。ご連絡下さい。

ロシア長期留学

モスクワ国立大学 10ヶ月間 サンクトペテルブルグ国立大学 10ヶ月間 ウラジオストク極東大学 10ヶ月間

4月出発(1/31締切) 9月出発(6/15締切)



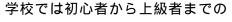
現在、第 34 期生(2008 年 4 月 出発)を募集中です。締め切りは、 2008 年 1 月 31 日です。

第34期生のみモスクワ国立大学 の募集を行いません。ご了承下さい。 第35期より募集を再開いたします。

長期留学先を決めるのに迷ったら JIC までお気軽にご相談下さい。留学経験と大学に関する知識を持つスタッフが丁寧にアドバイスさせていただきます。

また、長期留学に行く前に、旅行や短期ロシア語研修 で現地の様子を見てみるのもおススメ。ロシアってどん なところか、肌で感じてみて下さい。

リデン&デンツはスイスの会社出資のロシア語学校で、サンクトペテルブルグとモスクワに校舎があります。世界各国、特にヨーロッパからの学生が多く集まり、学校はとてもインターナショナルな雰囲気。



レッスンが行われています。レッスンはグループでもマンツーマンでも。グループなら 2 週間から、マンツーマンレッスンなら 1 週間から受入可能です。宿泊はホームステイが基本です。



いつでも行ける短期プライベート研修

モスクワ国立大学 3週間~長期(大学寮1人部屋) モスクワ・ダリパス社 1~4週間(ホームステイ3食付) G&R インターナショナル 1週間~長期

(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)

ペテルブルグ・パートナー社 1~4週間 (ホ-ムステイ2食付)

ペテルブルグ文化大学 1週間~長期

(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)

ウラジオストク極東大学 1 週間~長期

(大学寮1人部屋/2人部屋)

ウラジオストク極東大学 1 ~ 4 週間(ホームステイ 2 食付) **VIZIT 生活体験コース** 1 ~ 4 週間(ホームステイ 3 食付)

JIC の短期研修は、大学での本格的な研修、語学学校でのインターナショナルなグループレッスン、ホームステイ+ロシア語個人レッスンなどバリエーションが豊富。1週間から受入可能な研修先もあるので、忙しくて時間がなかなか取れない・・」という方にもおススメです。も



ちろん 2,3ヶ月じっくり学ばれたい方にぴったりのコースもあります。ご自身のご希望内容に合わせてお選びいただけます。

デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立れた学校で、18世紀の建物の中で授業が行われます。アットホームな雰囲気でおススメです。グループレッスンとなり、2週間スームメンとなり、2週間スティが基本です。授業以外のファイビティも充実しています。



11~1月の予定

11月17日(土) JIC 東京 ロシア留学セミナー 12月 8日(土) JIC 東京 留学相談会

10:00~14:30 要予約

12月16日(日)JIC大阪 ロシアフェアー

13:00~17:00

12月29日(土)~1月6日(日)年末年始休業

1月12日(土) JIC 東京・大阪 留学相談会

1月26日(土) JIC 東京・大阪 留学相談会

両日とも東京 11:00~16:00 要予約

大阪 13:00~16:00 要予約

最新情報、追加情報はホームページでご紹介しています お問合せはお気軽にどうぞ!

JCのホームページを チェックしょう!

http://www.jic-web.co.jp



◆年末年始の営業のご案内◆

年末年始の営業は下記の通りとなっております。

年末の営業終了日:2007年12月28日(金)15:00まで営業

休業日時:12月29日(土)~1月6日(日)まで休業

年始の営業開始日:2008年1月7日(月)10:00から営業

◆東京オフィス移転のお知らせ◆

JIC 東京オフィスは 2007 年 12 月 25 日より 新住所へ移転予定です。

12月21日までの現住所:

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6 階 12月 25日以降の新住所:

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPCビル 7階



(TEL・FAX 番号に変更はありません) なお、<u>12 月 22 日(土)</u>は移転のため休業 させていただきます。ご了承下さい。

ぐ◇◆編集後記◆◇ぐ

11 月に入ってからぐっと冷えこむようになりました。皆さま風邪などひいていらっしゃいませんか?いつもは外で遊ぶのが好きな私も、寒くなってきた途端に、にわかインドア派に変身します。

冬は大好きなフィギュアスケートの季節です。テレビをつ ければほぼ毎週のようにスケート番組が放映されています。 私がスケートを観はじめた 12,3 年前はそんなこともなかっ たのですが、日本のスケーターが世界的に注目され、日本 でもスケート人気がどんどん高まっている証拠ですね。つい この間もアマチュアの大きな大会の一つであるロシアカップ がモスクワで行われました。ありがたいことに、JIC の旅行局 では、夏ごろからこのロシアカップを観に行きたいという問い 合わせを何件もいただきました。モスクワはホテルの料金も 高く、観戦チケットの料金も間際まで出ず、大会ぎりぎりまで バタバタと手配をさせていただくこともございましたが、寒い ロシアでスケート観戦を楽しんでこられた方もいらっしゃいま す。またロシアはスケート大国ですからプロのアイスショーも ロシア各地でたくさん開催されていますし、有名セレブとス ケーターがペアで滑って技と美を競うエンターテインメントシ ョーのテレビ放映はすごい視聴率だそうです(これはスケー ターよりもセレブ人気なんだそうですが・・・)。

それから、スケートつながりですが、冬にロシアへご渡航される皆さまにお知らせです。12月から来年3月初旬まで、 モスクワの赤の広場とサンクトペテルブルグの宮殿広場に 特設スケートリンクがオープンしてます。もちろん屋外ですよ。 興味のある方で寒さに強いという方はぜひお試し下さい!

(JIC 大阪 小西章子)

ロシア留学旅行相談(東京・大阪各事務所)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に 応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 土曜 10-16 時 大阪事務所 平日 10-18 時 土曜(6-9 月のみ)10-16 時

留学・研修各種パンフレットは JIC へご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

~Jクラブ(JIC友の会)のご案内~

JICインフォメーションを年6回、またJICのイベント案内をもれなくお届けします。 ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。 国際親善交流センター